

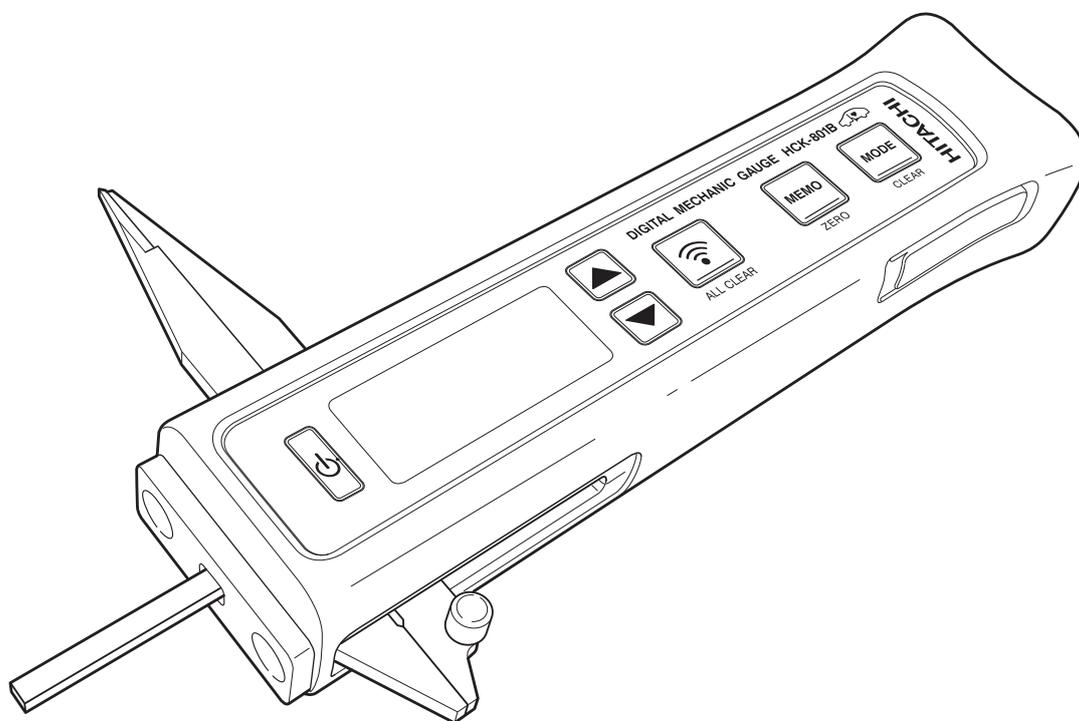
自動車健康診断対応 デジタルメカニックゲージ

Digital Mechanic Gauge

HCK-801B

取扱説明書

(保証書付)



本製品は、日本国外では使用
できません。
日本国内以外の場所で使用し
た場合には、当該国電波法の
法律違反になります。

このたびは、デジタルメカニックゲージHCK-801Bをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品の十分な活用と安全なご使用のために、取扱説明書はいつも手元におき、よくお読みいただいたうえでご使用ください。

もくじ

安全上のご注意 (必ずお守りください)	3
ご使用になる前に	6
ご使用上の注意	10
取り扱いについて	11
保管場所について	11
Bluetooth [®] に関する注意事項	11
製品の特長・用途	12
構成部品一覧表 (ご使用前にご確認ください)	12
システム概要	13
システム概要	13
本製品を使用するまでの流れ	13
本体各部の名称と働き	14
仕様	16
仕様	16
外形寸法	16
本体の充電方法	17
電源の入れ方、切り方	18
ペアリング方法 (端末との接続)	19
測定方法	20
測定モード	20
最小値モードの測定方法	21
固定値モードの測定方法	24
測定結果の操作方法	27
測定結果の出力方法	27
メモリーの消去方法	29
保守管理	31
故障かな?と思ったら	32
保証規定	34
保証書	35
お問い合わせ先	36

安全上のご注意 (必ずお守りください)

取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害や財産の損害の発生を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容 (表示・図記号) をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

- 表示内容を見逃して、誤った使い方をしたときに及ぼす危害や損害の程度を次の絵表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことがあり、かつその切迫の度合いが高い」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。
(下記は絵表示の一例です)

 この絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。
 この絵表示は、禁止 (やってはいけないこと) の内容です。
 この絵表示は、注意 (警告を含む) しなければならない内容です。
 この絵表示は、分解禁止の内容です。

警告

絵表示	重要事項	危害・損害
	<ul style="list-style-type: none"> ギアがパーキング (MT車の場合ニュートラル) になっていることを確認する。 	測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> サイドブレーキが確実に引かれていることを確認する。 	測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 小さいお子様の手の届かない場所で使用、保管する。 	事故やけが、感電の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 手がぬれた状態で本製品を使用しない。 	事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 火気のある場所や密閉された場所で使用しない。 	火災や引火・爆発する原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン・オイルなど可燃物の周辺や法令で第一類・第二類危険箇所指定されている場所では使用しない。 	火災や引火・爆発する原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 湿度の高い場所、雨雪などの水分のかかる場所では使用しない。 	漏電、感電や本製品の故障の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 暗い場所で作業しない。 	事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 故障のまま使用しない。画面が表示されない、スイッチが操作できないなどの故障の状態で使用しない。 	そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> USB端子を指で触れたり異物を入れない。 	事故や感電、火災、本製品の故障の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 直射日光があたる場所や高温になる場所に置いたり、炎天下の車室内に放置しない。 	火災や感電、故障などの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 異常のまま使用しない。万一、煙が出ている、変なおいや音がするときは、すぐに使用を中止する。 	そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 電池が液漏れしたり、異臭がしたりするときは使用をやめる。 	液漏れ、発熱、破裂などのおそれがある。万が一、電池の液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに多量のきれいな水で洗い流す。
	<ul style="list-style-type: none"> 整備の際、手や衣服などが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する。 	けがの原因となる。
 	<ul style="list-style-type: none"> 整備の際、排気部などのエンジンの高温部分に触れないように注意する。 	やけどの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> ぬらしたりしない。 	火災や感電の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 分解や改造はしない。 	火災や感電、故障などの原因となる。

注意

絵表示	重要事項	危害・損害
	<ul style="list-style-type: none"> • 動いている測定物を測定しない。 	巻き込まれてけがをするおそれがある。
	<ul style="list-style-type: none"> • 安全のため保護めがねなどを着用して作業する。 	けがのおそれがある。
	<ul style="list-style-type: none"> • 高所で作業する場合は必ず落下防止の処置を行う。 	けがや器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 作業中に異音等が発生した場合は、直ちに作業を中止する。 	けがや本製品の故障、器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 本体画面表示部をたたいたり、強く押しったり傷をつけたりしない。 	画面表示部の故障、破損の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 付属品以外のUSBケーブルは使用しない。 	本製品の故障の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 本体を投げない。 	本製品の故障や器物損傷のおそれがある。
	<ul style="list-style-type: none"> • 水の中に落としたり、水の中に放置したりしない。 	本製品の故障の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 取扱説明書記載以外の用途には使用しない。 	けがや器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 化学薬品、海水、水分などを付着させたまま放置しない。 	本製品の故障の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 通電中の作業対象物には使用しない。 	感電や器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 本体を足で蹴ったり、ハンマーなどで叩いたりして衝撃を与えない。 	けがや本製品の故障、器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 不安定な場所で使用したり、無理な姿勢で作業しない。 	けがや本製品の故障、器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 外側用ジョウおよび内側用ジョウの先端に刺されないように注意する。 	尖っているためけがをするおそれがある。
	<ul style="list-style-type: none"> • 排気部などのエンジンの高温部分に触れないように注意する。 	事故、本製品や自動車の故障、破損、やけどの原因となる。

ご使用になる前に

本体について

危険

絵表示	重要事項	危害・損害
	• 電池は当社指定のACアダプターおよびUSBケーブルを使用し、当社指定の充電条件を守る。	その他の充電条件（指定以外の温度、指定以外の高い電圧／大きな電流、または改造した充電器など）で充電すると、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 水・海水・ジュースなどで濡らさない。	電池に組み込まれている保護機構が壊れ、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• ストーブなどの熱源のそばに放置しない。	発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 電池は本製品専用のため、取り外して他の機器で使用しない。	異常な電流が流れ、電池が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 火の中に投入したり、加熱しない。	絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護機構を損傷するだけでなく、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。	電池に組み込まれている保護機構が壊れ、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしない。	電池が変形、保護機構が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 電池に直接はんだ付けしない。	熱により絶縁物が溶けたり、電池に組み込まれている保護機構が壊れ、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 火のそばや、炎天下駐車の中などでの充電しない。	高温になると、保護機構が壊れて異常な電流や電圧で充電され、発熱、破裂、発火の原因となる。
	• 電池を分解や改造しない。	電池に組み込まれている保護機構が壊れ、発熱、破裂、発火の原因となる。

警告

絵表示	重要事項	危害・損害
	<ul style="list-style-type: none"> 本製品および電池は、乳幼児の手の届かないところに置く。 	事故やけが、感電の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 電池の使用、充電、保管時の異臭、発熱、変色、変形、その他今までと異なることに気がついたときは、使用を中止する。 	電池が発熱、破裂、発火する原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 充電時、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を停止する。 	電池が発熱、破裂、発火する原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 電池が漏液したり異臭がするときは直ちに火気より遠ざける。 	漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 電池が漏液して液が目に入ったときは、こすらずに水道水などのきれいな水で充分洗ったあと、直ちに医師の治療を受ける。 	放置すると液により、目に障害を与える原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 電子レンジや高圧容器に入れない。 	急に加熱されたり、密閉状態が壊れたりして発熱、破裂、発火の原因となる。

注意

絵表示	重要事項	危害・損害
	<ul style="list-style-type: none"> 使用する前に、必ずこの取扱説明書または注意書きをよく読む。また、読み終わったあとは大切に保管し、必要なとき読む。 	けがや電池の破損、器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> お買上げ後、はじめて使用する場合に、さびや異臭、発熱、その他異常と思われたときは、使用しない。 	けがや電池の破損、器物損傷の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 長期間使用しない場合は、本体を70%程度充電した状態で、高温多湿を避けて保管する。保管中も6カ月に1度本体を充電する。 	本製品の故障の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> USBポートが汚れたら乾いた布で拭き、ポートをきれいにしてから使用する。 	接触が悪いと充電されないおそれがある。
	<ul style="list-style-type: none"> 電池が漏液して液が皮膚や衣服に付着した場合には、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流す。 	皮膚がかぶれたりする原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 直射日光の当たる場所、炎天下駐車の内車など、保管温度以上になる場所に放置しない。 	電池を漏液させる原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 危険防止のため保護機構に損傷を与える可能性のある静電気が発生する場所で使用しない。 	保護機構が壊れ発熱、破裂、発火の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 電池の充電温度範囲 (0 ~ 40℃) 以外で充電しない。 	電池を発熱、破損させる原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 電池の使用温度範囲 (使用：0 ~ 40℃、保存：-20 ~ 40℃) 以外で使用しない。 	電池を発熱、破損させる原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 本製品の使用中や充電中に、可燃物を上に載せたり、覆ったりしない。 	電池を発熱、破裂、発火させるおそれがある。

ACアダプターおよびUSBケーブルについて

危険

絵表示	重要事項	危害・損害
	<ul style="list-style-type: none"> • 分解や改造しない。 	発煙、発熱、発火、感電、やけどの原因となる。

警告

絵表示	重要事項	危害・損害
	<ul style="list-style-type: none"> • ACアダプターは根元まで確実に差し込む。 	感電や発火の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • ACアダプターのほこりなどは定期的に取り除く。 	ほこりなどがたまるとショートして発火の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 付属のACアダプターは本製品の電池専用のため、電池を充電する以外の用途には使用しない。 	ACアダプターが発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • USBケーブルを傷つけたり、無理に曲げたり、コードの上に物を載せない。 	USBケーブルが破損やショートするなどで、発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • ACアダプターの接続部に金属類を差し込まない。 	発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 子供だけで使用させたり、幼児の手の届くところで使用しない。 	感電、けがのおそれがある。
	<ul style="list-style-type: none"> • ぬれた手でACアダプターを抜き差ししない。 	感電や発火の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • コンセントの差し込みが不十分なままで使用しない。 	ショートなどによって発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none"> • ACアダプターを水に浸けたり、水をかけたりしない。また、水に濡れたときは、使用しない。 	水に濡れると、絶縁不良や回路のショートなどで、発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。

注意

絵表示	重要事項	危害・損害
	<ul style="list-style-type: none">• 使用時以外は、ACアダプターをコンセントから抜く。	絶縁劣化による漏電、発火、感電の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none">• 異常と思われたときには、ただちにACアダプターをコンセントから抜く。	発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none">• 電池の充電温度範囲 (0 ~ 40℃) 以外で充電しない。	電池を発熱、破損させる原因となる。
	<ul style="list-style-type: none">• ACアダプターを湿気やほこりの多い場所では使用または保管しない。	発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。
	<ul style="list-style-type: none">• 直射日光下や発熱体の近くなど、高温の場所では使用または保管しない。	変形や発熱の原因となる。
	<ul style="list-style-type: none">• ACアダプターの上に物を載せたり、落下しやすいところに置かない。	外部の力や衝撃でACアダプターの内部回路が破損し、使用時に発煙、発熱、発火し、感電、やけどの原因となる。

ご使用上の注意

- ノギスの測定面をきれいにふき取ってから測定してください。
- アルコールを含む液体で本製品をふかないでください。表面が溶けたり、変質・変形したりするおそれがあります。
- 使用前に各ジョウの測定面を閉じ（合わせ）、測定面に隙間がないことを確認してください。
- 外側測定の際は、測定物をできるだけ根元に近いところではさみ、測定面全体ではさむように測定してください。
- 内側測定の際は、測定物のできるだけ深い位置に入れ、測定面全体を密着させるように測定してください。
- 深さ測定の際は、面に対して垂直にセットしてください。
- ゴミ、ホコリなどが多い場所に置いたり、保管しないでください。
- 気温0℃～40℃、湿度90%以下の環境でご使用ください。正確な測定ができません。
- 保管の際は、本体を収納ケースに入れて保管してください。内部に塵やほこりなどが入り込み、故障の原因となります。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 
- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発信を停止し、パーテーションの設置などの混信回避処置を実施してください。
 - 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、お買い上げの販売店または弊社担当窓口（カスタマーサポートセンター）へお問い合わせください。

連絡先：カスタマーサポートセンター
受付時間：9：00～17：30（土・日・弊社休業日除く）
TEL：03-3527-6323

取り扱いについて

- 衝撃を与えないでください。
本製品を落下、たたかなどして衝撃を与えると故障の原因となります。

保管場所について

下記の場所には保管しないでください。

- ホコリの多い場所
- 水のかかるところ
- 強い衝撃が加わるところ
- 気温 -20℃以下 40℃以上、湿度 90%以上のところ
- 結露するところ
- 直射日光のあたるところ

Bluetooth[®]に関する注意事項

- Bluetooth[®]機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。
場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本製品および Bluetooth[®]機器の電源を切ってください。
病院内／電車内の優先席付近／航空機内など引火性ガスの発生する場所や、自動ドアや火災報知機の近く
- Bluetooth[®]技術を使用した接続時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品はすべての Bluetooth[®]機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。
接続する Bluetooth[®]機器は、Bluetooth SIG の定める Bluetooth[®]標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。
接続する機器が上記 Bluetooth[®]標準規格に適合していても、機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 接続する機器によって、Bluetooth[®]接続ができるようになるまで時間がかかることがあります。
- 本製品の無線設備は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として技術基準適合証明を受けているため、機器を分解／改造しないでください。なお、日本国内でのみ使用できます。

製品の特長・用途

特長

- 自動車整備で測定が必要なブレーキパッド残量やタイヤ溝深さを測定可能。
- 測定中の最小値を記録する最小値モードを搭載。
- 測定部を0.5秒以上固定した値を記録する固定値モードを搭載。
- Bluetooth[®] 4.0 (BLE) で測定結果を端末 (HDM-8000 など) に出力可能。
- 測定結果を最大9件メモリーに記録可能。
- 小さな溝や穴でも測定可能な細いデプスバーを採用。
- 深い穴でも測定可能な長い内側用ジョウを採用。
- 測定結果を確認し易い大型の液晶とバックライトを採用。
- 付属のUSBケーブルで繰り返し充電可能なリチウムポリマー電池を採用。
- 自動車の塗装面などを傷つけ難い、取り外し可能なラバージャケットを装着。
- 測定中の落下を防止するストラップを付属。

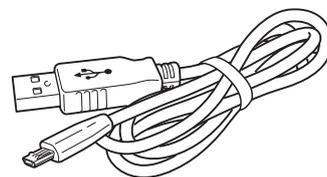
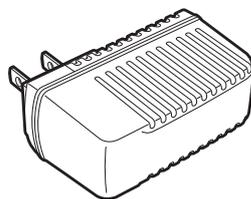
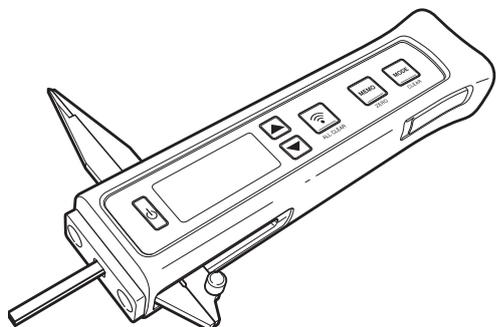
用途

- 内側 (内径)、外側 (外径)、深さの測定。
- ブレーキパッド残量測定。
- タイヤ溝深さ測定。

構成部品一覧表 (ご使用前にご確認ください)

本製品には、下記のものと同梱されています。ご使用前にご確認ください。
万一、不足している場合や破損している場合は、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

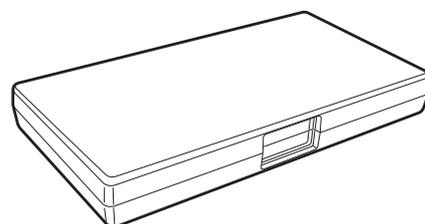
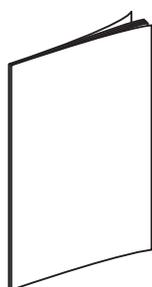
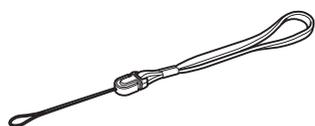
本体 (ラバージャケット装着済み) : 1台 ACアダプター : 1個 USBケーブル : 1本



ストラップ : 1本

取扱説明書兼保証書 : 1冊

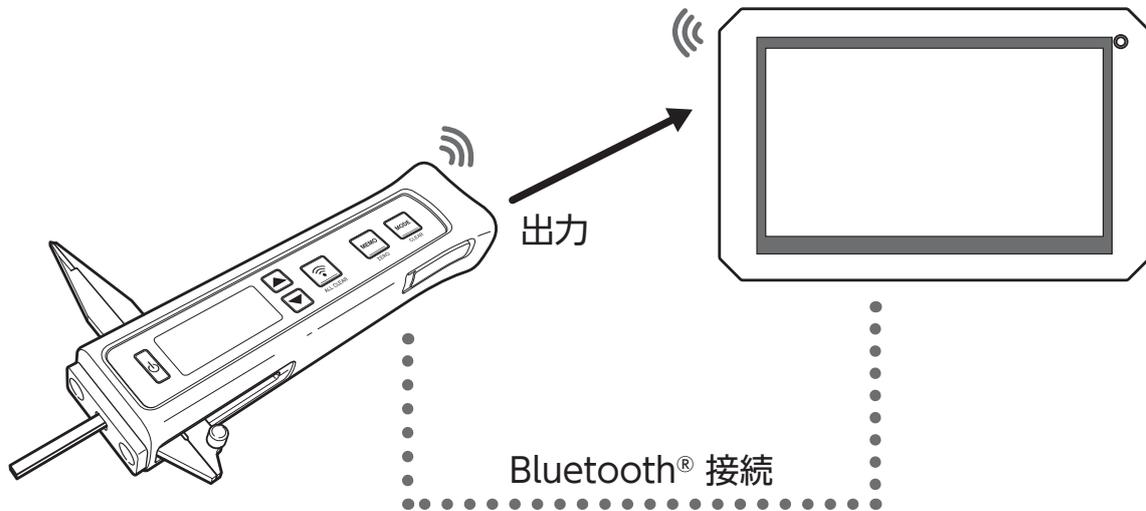
収納ケース : 1個



システム概要

システム概要

Bluetooth® 通信を用いて、測定結果を端末に無線送信できます。(単独使用も可能)

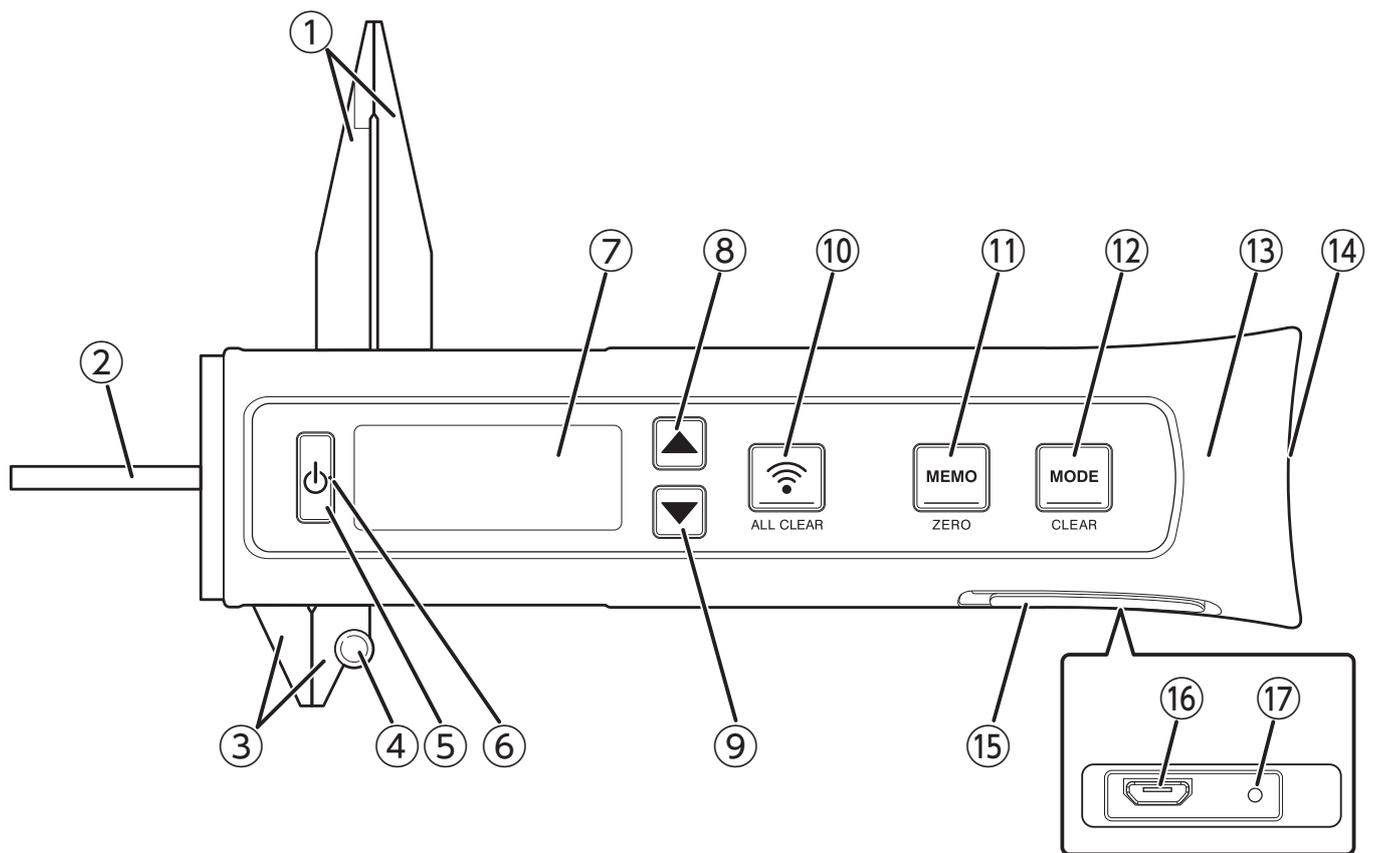


本製品を使用するまでの流れ

はじめて使用するときには、次の順序で本体と端末を操作・設定します。

- 1 本体を充電する** P17
- 2 本体の電源を入れる** P18
- 3 端末とペアリングする** P19
- 4 測定物を測定する** P20
- 5 測定結果を出力する** P27

本体各部の名称と働き



①内側用ジョウ

内側（内径）を測定するときに使用します。

②デプスバー

深さを測定するときに使用します。

③外側用ジョウ

外側（外径）を測定するときに使用します。

④ローレットつまみ

内側用ジョウおよび外側用ジョウを移動するときに使用します。

⑤電源ボタン

本体の電源を入/切します。

⑥充電ランプ

充電状態を示します。

緑点灯： 充電中

消灯： 充電完了

⑦液晶部

値や選択項目などを表示します。また、アイコンやバックライトで機能や状態を示します。

• アイコン

MIN (最小値モード) : 最小値モード時に点灯します。

HOLD (固定値モード) : 固定値モード時に点灯します。

※ (Bluetooth[®]接続) : 端末とのペアリング中、端末と接続中に点灯します。

 (電池残量) : 内蔵電池の電池残量を4段階で示します。

• バックライト

測定や出力の状態を示します。

緑点灯 : 正常終了時

赤点灯 : エラー時

確認

何も操作していない状態で約1分経過すると、自動的にバックライトが消灯します。デプスバー、外側用ジョウ、内側用ジョウ、ボタンを操作すると、点灯します。

⑧アップボタン / ⑨ダウンボタン

メモリーに記録した測定結果表示を切り替えます。

⑩送信・オールクリアボタン

測定結果の出力や全消去時に使用します。

⑪メモ・ゼロボタン

測定結果のメモリー記録時や基準点 (ゼロ点) の設定時に使用します。

⑫モード・クリアボタン

モードの切替や測定結果の消去時に使用します。

⑬ラバージャケット

自動車の塗装面などを傷つけ難くするため、工場出荷時に装着済みです。取り外し可能です。

⑭ストラップ取付部

測定中の落下を防止するため、付属のストラップを取り付けられます。

⑮カバー

USBポート (⑯) またはリセットボタン (⑰) を使用するときには開けます。

⑯USBポート

本体の充電時に付属のUSBケーブルを接続します。

⑰リセットボタン

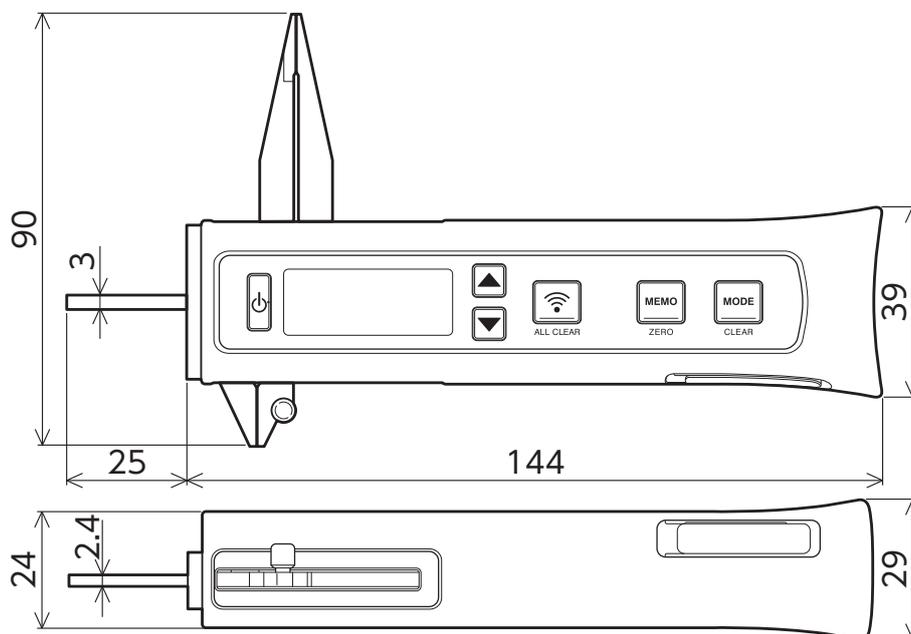
工場出荷時の状態にリセットするときには使用します。

仕様

仕様

本体サイズ	169mm (L) × 90mm(H) × 29mm (D) (ラバージャケット含)
本体質量	195g (ラバージャケット含)
用途	ブレーキパッド残量測定 タイヤ溝深さ測定
測定単位	mm
測定範囲	0 ~ 25mm
測定精度	± 0.1mm (量子化誤差除く)
本体メモリー数	9件
LCD表示サイズ	14mm (H) × 35mm (W)
オートライトOFF機能	1min
オートパワー OFF機能	4h
入出力端子	microUSB
無線通信方式	Bluetooth® 4.0 (BLE)
無線通信周波数	2.4GHz 帯
無線通信距離	約 10m (使用環境により変化)
内蔵電池	リチウムポリマー電池 / 3.7V / 210mAh
電池残量	4段階表示
連続使用時間	約 8時間 (使用環境により変化)
充電時間	約 1時間
環境温度	動作温度範囲 : 0 ~ 40℃ 保存温度範囲 : -20 ~ 40℃
環境湿度	90%rh 以下 (ただし結露ないこと)
ACアダプター	入力電圧 AC 100V 出力電圧 DC 5V 最大出力電流 2A 出力 USB Type A メス
USBケーブル	ケーブル長 800mm

外形寸法



単位 : mm

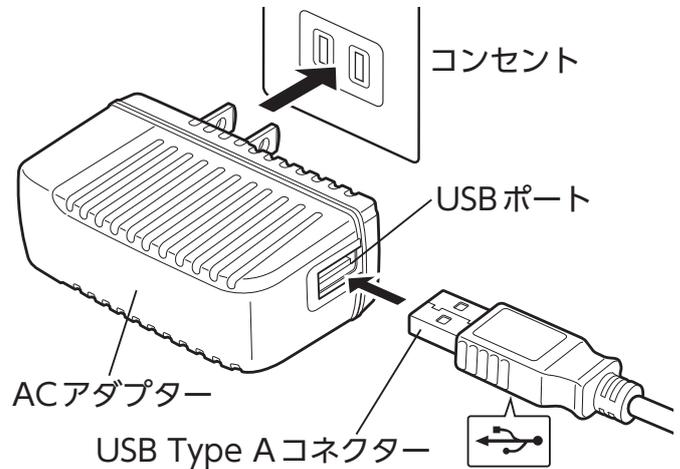
本体の充電方法

次の場合は、本体を充電してから使用してください。

- はじめて使用するとき
- 電池残量のアイコンが1つまたはなしのとき
- 長期間使用しなかったとき

1. ACアダプターをコンセントに差し込む。

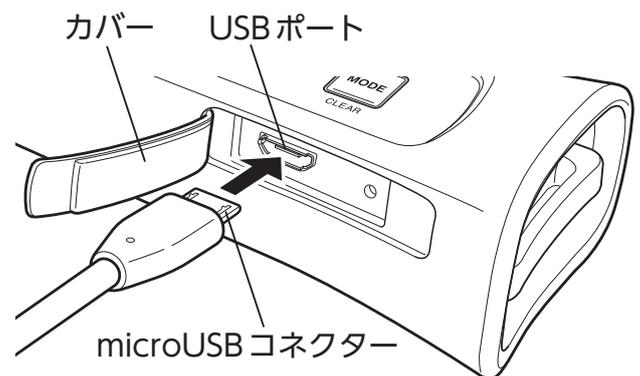
2. ACアダプターのUSBポートに付属のUSBケーブルのUSB Type Aコネクターを差し込む。



! USB Type Aコネクターは、正しい向きでまっすぐ確実に挿入してください。

3. 本体のカバーを開け、USBポートに付属のUSBケーブルのmicroUSBコネクターを差し込む。

! microUSBコネクターは、正しい向きでまっすぐ確実に挿入してください。



充電ランプが“緑”に点灯し、充電が開始される。

充電が完了すると、充電ランプが消灯する。



4. 本体からUSBケーブルを抜く。
5. ACアダプターからUSBケーブルを抜く。
6. コンセントからACアダプターを抜く。
7. 本体のカバーを閉める。



充電時、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を停止してください。電池が発熱、破裂、発火する原因になるおそれがあります。



使用後はリサイクルへ

使用済み電池の廃棄に関しては、弊社担当窓口（カスタマーサポートセンター）へお問い合わせください。

連絡先：カスタマーサポートセンター

受付時間：9：00～17：30（土・日・弊社休業日除く）

TEL：03-3527-6323

電源の入れ方、切り方

電源を入れる

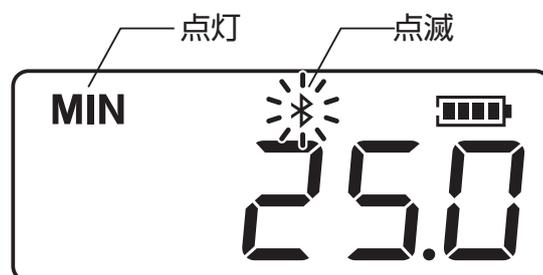
1.  (電源ボタン) を1秒以上押す。

ブザーがピッと鳴り、液晶部がすべて点灯する。

「MIN」（最小値モード）が点灯する。

「*」（Bluetooth®接続）が点滅し、ペアリングを開始する。

液晶部に「25.0」と表示される。



電源を切る

1.  (電源ボタン) を2秒以上押す。

液晶部が消灯する。

確認

何も操作していない状態で約4時間経過すると、自動的に電源が切れます。

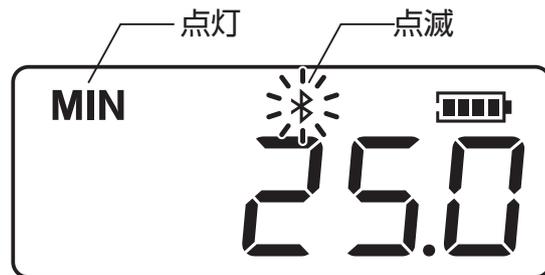
ペアリング方法 (端末との接続)

1. 本製品をペアリングモードにする。

電源が入った状態で、 (送信・オールクリアボタン) を短く押す。

※2秒以上押すと、メモリーが全件消去されます。

「※」 (Bluetooth®接続) が点滅し、ペアリングを開始する。



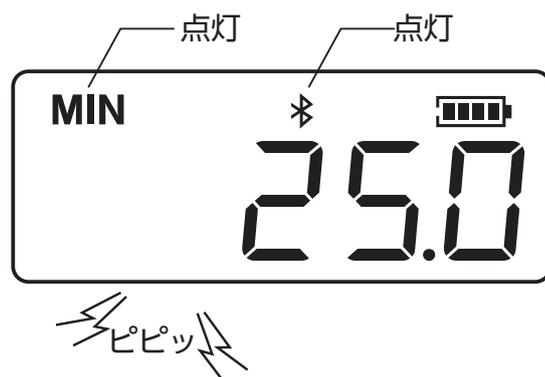
確認

- ペアリングモードで約20秒経過すると、ペアリングモードが終了し、「※」 (Bluetooth®接続) が消灯します。
- 再度ペアリングモードを開始するときは、 (送信・オールクリアボタン) を押します。
- 端末と接続せずに測定することもできます。

2. 端末のBluetooth®機能をオンにする。

3. 端末で本製品を選択する。

端末のBluetooth®機能をオンにして、本製品が接続されると、ブザーがピピッと鳴り、「※」 (Bluetooth®接続) が点灯する。



確認

- 本製品と接続可能な端末が複数ある場合は、データを送信したい端末側を受信状態にし、上記手順1～3を操作してください。
- 端末側の操作方法は、以下のURLにアクセスし、関連ページへお進みください。

日立自動車健康診断URL

http://www.hdm.hitachi-autoparts.co.jp/hdm_usr/html/index.php

測定方法

測定モード

本製品は、最小値と固定値の、2つのモードで測定できます。用途に合わせて適切なモードで使用してください。

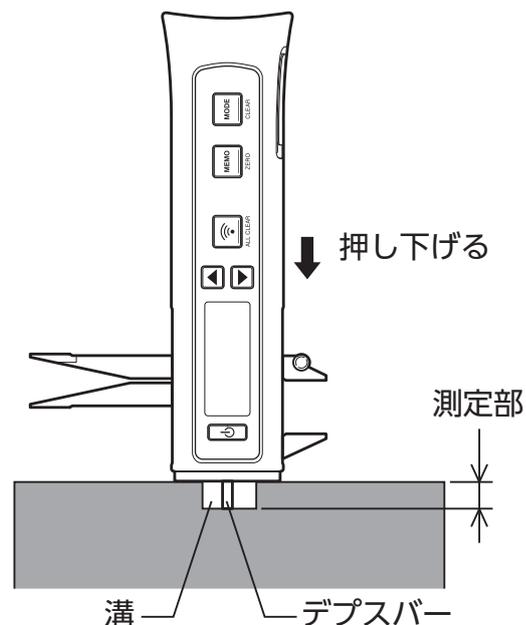
■ 最小値モード

デプスバーを使用し、測定部の最小値を測定します。

タイヤの残溝やブレーキパッドの残量などを測定できます。

詳細は **P21** を参照

測定する溝にデプスバーをセットし、本体が測定物に当たるまで押し込む。



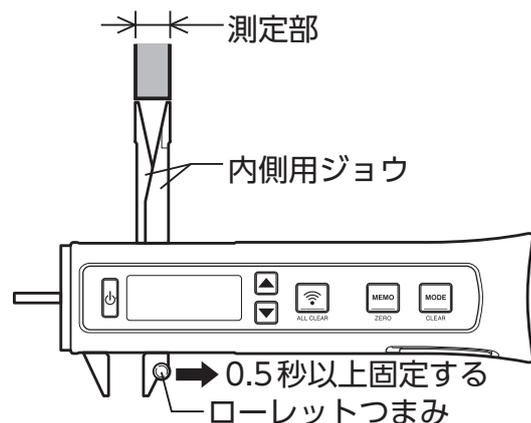
■ 固定値モード

内側用ジョウまたは外側用ジョウを使用し、測定部を0.5秒以上固定した値を測定します。キャリパーのサービスホールからブレーキパッドの残量を測定できます。

内側を測定する場合

ローレットつまみをスライドし、内側用ジョウを広げて測定部を0.5秒以上固定する。

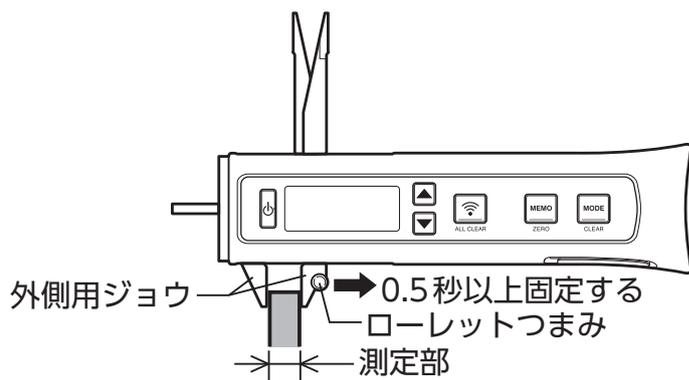
詳細は **P24** を参照



外側を測定する場合

ローレットつまみをスライドし、外側用ジョウで測定部を挟み0.5秒以上固定する。

詳細は **P24** を参照



最小値モードの測定方法

1. 本体の電源を入れて、端末と接続する。

電源の入れかたはP18を参照

2. 最小値モードになっていることを確認する。

「MIN」(最小値モード)が点灯する。

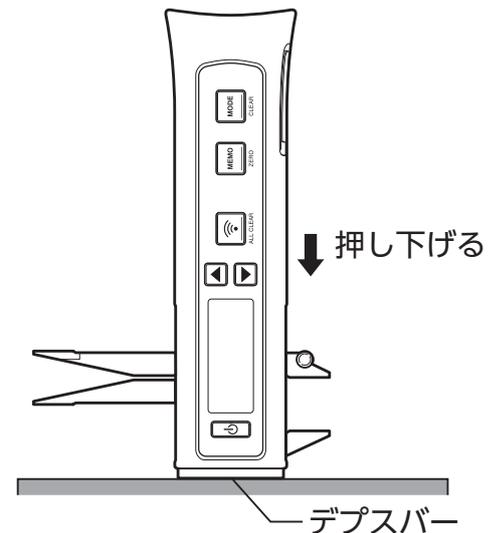
確認

「HOLD」(固定値モード)が点灯している場合は、 (モード・クリアボタン)を押して「MIN」(最小値モード)に切り替えてください。

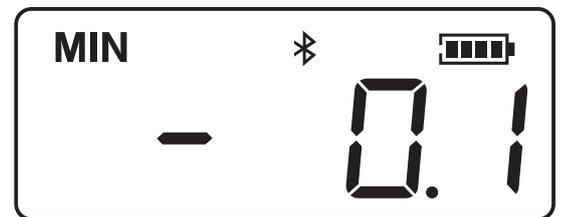


3. 基準点(ゼロ点)を設定する。

- ① 滑らかで水平な台の上で本体(デプスバー)を台に当たるまで押し下げる。



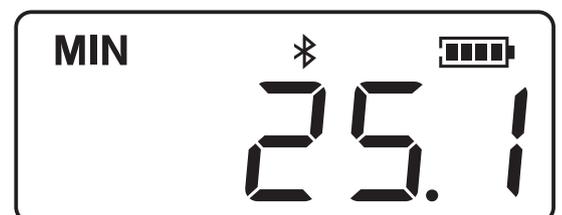
実測値が表示される。



- ②  (メモ・ゼロボタン)を2秒以上押す。
「AJST」と表示される。
基準点(ゼロ点)が設定される。



- ③ デプスバーを戻す。
実測値が表示される。

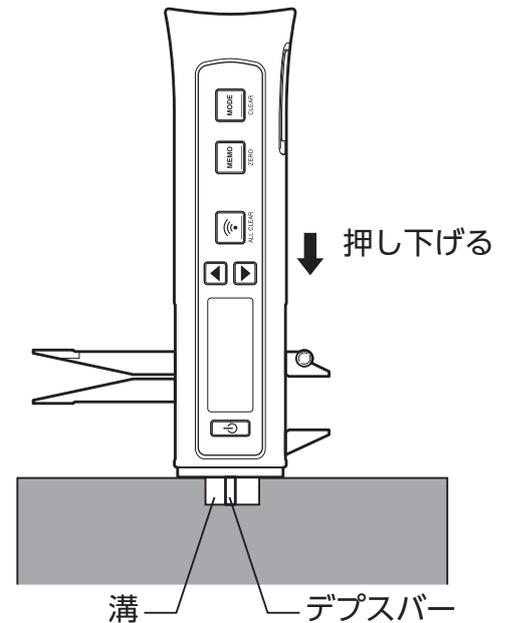


4. 溝を測定する。

- ① 測定する溝にデプスバーをセットし、本体が測定物に当たるまで押し下げる。



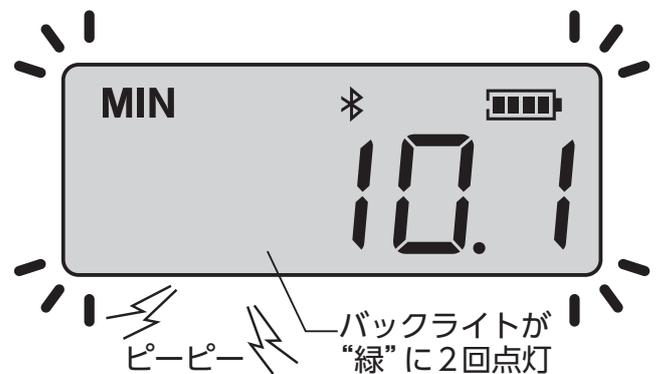
デプスバーは、必ず「24.0」以下を表示するようにスライドしてください。測定が開始されません。



- ② デプスバーを戻す。
ブザーがピーピーと鳴り、バックライトが“緑”に2回点灯する。
実測値が表示される。



デプスバーは、必ず元の位置 (外側用ジョウが閉じている状態) に戻してください。測定が終了されません。



確認

メモリーに記録する前の実測値を仮メモリー値と呼びます。

- 仮メモリー値をメモリーに記録する場合
手順5に進む。
- メモリーが0件で、仮メモリー値をメモリーに記録せずに、すぐに端末に出力する場合
 (送信・オールクリアボタン) を押す。

出力方法はP27を参照

確認

メモリーに記録した測定結果がある場合は、メモリーの測定結果のみを出力します。仮メモリー値は出力されません。

- 仮メモリー値を破棄し、測定し直す場合
再度①と②の操作をする。

5. 仮メモリー値をメモリーに記録する。

 (メモ・ゼロボタン) を押す。
ブザーがピッと鳴り、メモリー 1 に記録される。



6. 測定を続ける場合は、手順4と5を繰り返す。

9件 (メモリー 1 ~ 9) まで記録できる。

- メモリーに記録した測定結果は、 (アップボタン) /  (ダウンボタン) で切り替えて確認できます。
- 不要な測定結果を1件のみ選択して、または全件まとめて消去できます。
消去方法は **P29** を参照
- 電源を切ったり、モードを切り替えたり、基準点 (ゼロ点) を設定すると、メモリーに記録した測定結果はすべて消去されます。電源を切る前に測定結果を端末に出力してください。
出力方法は **P27** を参照

- メモリー 9 まで記録したあと、さらに測定して  (メモ・ゼロボタン) を押すと、メモリーがいっぱいになったことを示す「FULL」が表示されます。メモリーに記録した測定結果を出力または消去してください。
このとき、10 件目の測定結果は仮メモリー値として残りますが、メモリーに記録できません。
出力方法は **P27** を参照
消去方法は **P29** を参照



確認

固定値モードの測定方法

1. 本体の電源を入れて、端末と接続する。

電源の入れかたはP18を参照

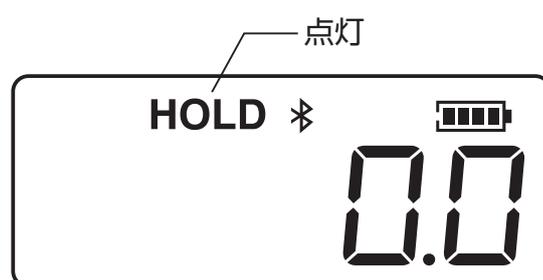
2. 最小値モードになっていることを確認する。

「MIN」(最小値モード)が点灯する。



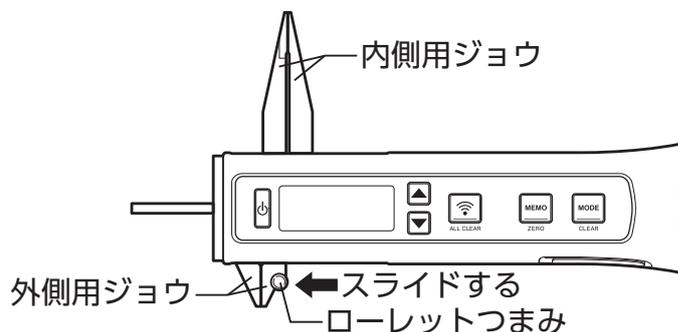
3.  (モード・クリアボタン) を押し、固定値モードに切り替える。

「HOLD」(固定値モード)が点灯する。

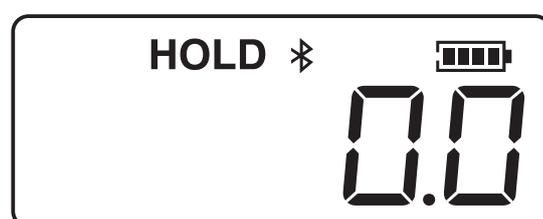


4. 基準点(ゼロ点)を設定する。

- ① ローレットつまみをスライドし、内側用ジョウおよび外側用ジョウを確実に閉じる。



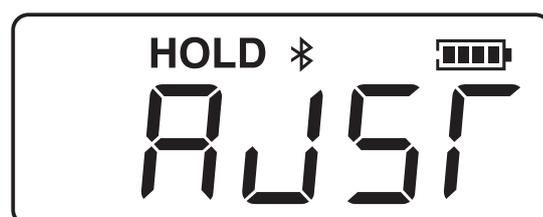
実測値が表示される。



- ②  (メモ・ゼロボタン) を2秒以上押す。

「AJST」と表示される。

基準点(ゼロ点)が設定される。



5. 測定する。

内側/外側を測定する。

内側を測定する場合

ローレットつまみをスライドし、内側用ジョウを広げて測定部を0.5秒以上固定する。



ローレットつまみは、必ず「0.5」以上を表示するようにスライドしてください。実測値が固定されません。

外側を測定する場合

ローレットつまみをスライドし、外側用ジョウで測定部を挟み0.5秒以上固定する。



ローレットつまみは、必ず「0.5」以上を表示するようにスライドしてください。実測値が固定されません。

ブザーがピーピーと鳴り、バックライトが“緑”に2回点灯する。
実測値が表示される。

確認

メモリーに記録する前の実測値を仮メモリー値と呼びます。

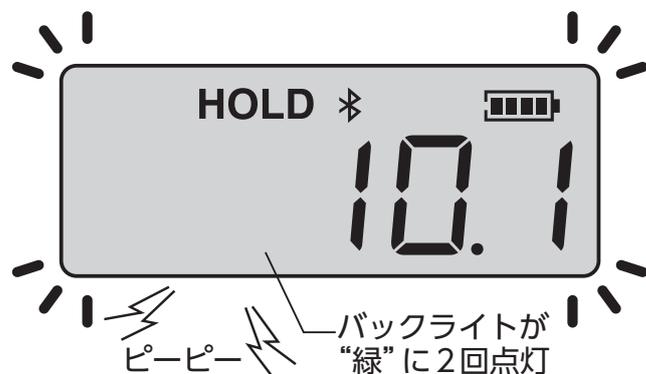
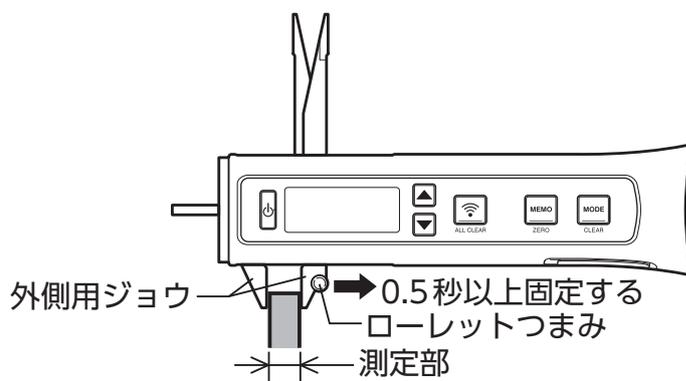
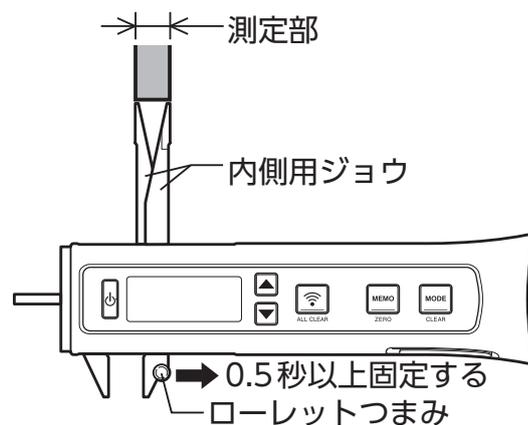
- 仮メモリー値をメモリーに記録する場合手順6に進む。
- メモリーが0件で、仮メモリー値をメモリーに記録せずに、すぐに端末に出力する場合

 (送信・オールクリアボタン) を押す。

出力方法はP27を参照

確認

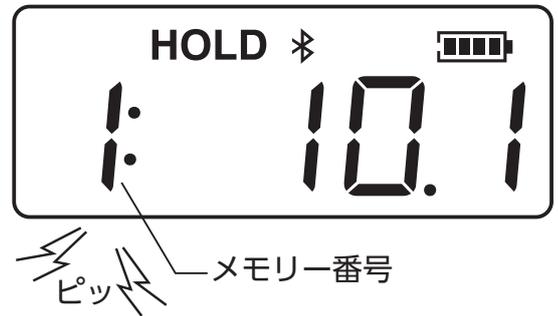
- メモリーに記録した測定結果がある場合は、メモリーの測定結果のみを出力します。仮メモリー値は出力されません。
- 仮メモリー値は端末に出力したあとも画面に表示されますが、 (メモ・ゼロボタン) を押してもメモリーに記録されません。



- 仮メモリー値を破棄し、測定し直す場合
再度測定 (内側 / 外側) から操作する。

6. 仮メモリー値をメモリーに記録する。

 (メモ・ゼロボタン) を押す。
ブザーがピッと鳴り、メモリー 1 に記録される。



7. 測定を続ける場合は、手順5と6を繰り返す。

9件 (メモリー 1 ~ 9) まで記録できる。

- メモリーに記録した測定結果は、 (アップボタン) /  (ダウンボタン) で切り替えて確認できます。
- 不要な測定結果を1件のみ選択して、または全件まとめて消去できます。

消去方法は **P29** を参照

- 電源を切ったり、モードを切り替えたり、基準点 (ゼロ点) を設定すると、メモリーに記録した測定結果はすべて消去されます。電源を切る前に測定結果を端末に出力してください。

出力方法は **P27** を参照

- メモリー 9 まで記録したあと、さらに測定して  (メモ・ゼロボタン) を押すと、メモリーがいっぱいになったことを示す「FULL」が表示されます。メモリーに記録した測定結果を出力または消去してください。

このとき、10 件目の測定結果は仮メモリー値として残りますが、メモリーに記録できません。



出力方法は **P27** を参照

消去方法は **P29** を参照

確認

測定結果の操作方法

測定結果の出力方法

確認

端末と接続していないと測定結果を出力できません。「*」（Bluetooth[®]接続）が点灯していることを確認してください。消灯している場合は、本製品と端末を正しく接続してください。

詳細はP19を参照

1. 測定後、 (送信・オールクリアボタン) を短く押す。

※2秒以上押すと、メモリーが全件消去されます。

出力を開始する。

- メモリーに記録した測定結果がある場合
メモリーに記録した測定結果がすべて出力される。
- メモリーが0件で、仮メモリー値を表示している場合
仮メモリー値が端末に出力される。

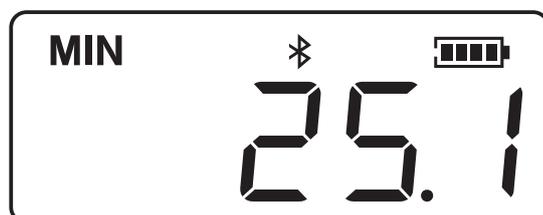


2. 出力結果を確認する。

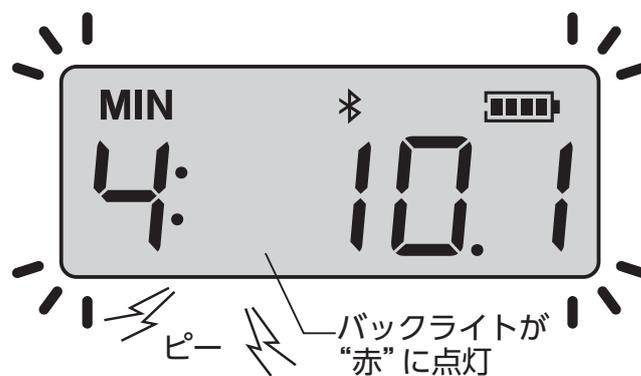
- 端末に正常に出力された場合
ブザーがピッと鳴り、バックライトが“緑”に点灯する。



測定に戻る。



- 端末に出力できなかった場合
ブザーがピーと鳴り、バックライトが
“赤”に点灯する。
出力ができなかった場合は、メモリー
は消去されません。端末側のデータ受
信設定や本体側のデータ数を確認して
から、もう一度出力の操作を行って
ください。



メモリーの消去方法

メモリーの1件消去

メモリーに記録した測定結果を1件のみ選択して、消去できます。

1. ▲ (アップボタン) / ▼ (ダウンボタン) を押し、消去するメモリー番号に切り替える。



2. MODE (モード・クリアボタン) を2秒以上押す。



選択したメモリー番号の測定結果が消去され、メモリー値が「CLEA」と表示される。

※右図の場合、3番目にメモリーに記録された測定結果を消去したことになります。



消去したメモリー番号以降に記録されている測定結果のメモリー番号が繰り上がって表示される。

※右図の場合、4番目にメモリーに記録された測定結果が、3番目として繰り上がって表示されます。



消去したメモリー番号以降の測定結果は、1つ前のメモリー番号に繰り上がります。

例) メモリー番号1～4に測定結果が記録されている場合

メモリー番号3を消去すると、メモリー番号4の測定結果がメモリー番号3に繰り上がります。

確認

メモリー番号	測定結果
1	10.1
2	10.2
3	10.3
4	10.4

消去

繰り上げ

メモリー番号	測定結果
1	10.1
2	10.2
3	10.4

メモリーの全件消去

メモリーに記録した測定結果を全件まとめて消去できます。

1.  (送信・オールクリアボタン) を2秒以上押す。

[A:CLEA] と表示される。

すべての測定結果が消去される。

最後にメモリーに記録した測定結果のみ、仮メモリー値として液晶部に表示されませんが、 (メモ・ゼロボタン) を押してもメモリーに記録されません。

また、メモリー9まで記録し、「FULL」が表示されたあとに測定した10件目の測定結果も、メモリーを全件消去したあと、仮メモリー値として液晶部に表示されませんが、 (メモ・ゼロボタン) を押してもメモリーに記録されません。



保守管理

注意

絵表示	重要事項	危害・損害
	・シンナー、ベンジンまたはアルコールおよび有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しない。	表面が溶けたり変質・変形したりするおそれがある。

■ 保管方法

付属の収納ケースに入れて保管してください。

■ 保守点検

デプスバー、外側用ジョウ、および内側用ジョウは常に異物の付着がないようにして使用してください。万が一異物が付着した場合は、柔らかい布で拭いてください。

USBポートは、異物が入らないように、充電中以外はカバーを閉じてください。

電池の消耗がはげしくなった場合は、使用を中止して、新品に交換する必要があります。劣化した電池を使用し続けた場合は、発火・爆発・破裂などの危険があります。(電池は消耗品です。)

内蔵電池の交換は、お買い上げの販売店または弊社担当窓口(カスタマーサポートセンター)へお問い合わせください。

■ 定期点検・校正

安全で正確な測定を維持するためには定期的な点検・校正が必要です。本製品は、通常の使用で1年以上許容誤差内の精度を維持できるよう製造されていますが、少なくとも1年に1回は定期的に点検・校正してください。点検・校正はお買い上げの販売店または弊社担当窓口(カスタマーサポートセンター)へお問い合わせください。

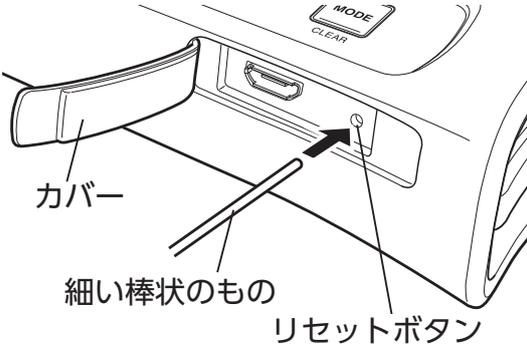
■ 長期間使用しない場合

本体を70%程度充電(: 電池残量3個)した状態で、高温多湿を避けて保管してください。保管中も6カ月に1度本体を充電してください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら場合には、次の症状、考えられる原因、対処の方法を参照してください。本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または弊社担当窓口(カスタマーサポートセンター)へお問い合わせください。

症状	考えられる原因	対処の方法	掲載ページ
電源が入らない	内蔵電池の電圧が低下している。	本体を充電する。	P17
電池の持ちが悪い	内蔵電池が劣化している。	使用を中止して、新品の電池に交換する。	P31
測定値が正確でない	デプスバー、内側用ジョウ、および外側用ジョウに異物が付着している。	異物を柔らかい布などで拭き取る。	—
	基準点(ゼロ点)がおかしい。	基準点(ゼロ点)を調整してから、測定する。	P21 P24
最小値モードで最小値を記録できない	デプスバーを少ししか移動させていない。	デプスバーを1mm以上移動させる。	P21
	デプスバーを元の位置に戻していない。	デプスバーを元の位置に戻す。	P21
固定値モードで固定値を記録できない	0.5秒以上内側用ジョウまたは外側用ジョウを固定していない。	内側用ジョウまたは外側用ジョウを0.5秒以上固定する。	P24
	内側用ジョウまたは外側用ジョウを少ししか移動させていない。	内側用ジョウまたは外側用ジョウを0.5mm以上移動させる。	P24
 (メモ・ゼロボタン)を押しても記録できない	既に測定結果をメモリーに9件記録している。	記録した測定結果を消去してから、再度記録する。	P29
 (アップボタン) /  (ダウンボタン)を押しても記録した測定結果が表示されない	測定結果をメモリーに記録していない。	測定結果をメモリーに記録したあとで、  (アップボタン) /  (ダウンボタン)を押す。	P23 P26

症状	考えられる原因	対処の方法	掲載ページ
端末と通信できない	ペアリングがされていない。	端末とペアリングしたあとで通信する。	P19
	別の機器にペアリングされている。	別の機器のBluetooth®機能をオフにしてペアリングを切断後、端末にペアリングして通信する。	—
	他に電子レンジやWi-Fi機器など強い電波を発生する機器がある。	強い電波を発生する機器の電源を切るか、本製品から離す。	—
	端末との距離が遠い。	端末との距離を近くして、通信する。	—
	端末の間に電波を遮る物がある。	電波を遮る物を移動させる。	—
ボタンを押しても何も反応しない その他異常が発生した	本製品のコンピュータに異常が発生した。	 (電源ボタン) を2秒以上押して、電源を切る。	P18
		 (電源ボタン) が反応しない場合は、本体のカバーを開け、細い棒状のもの(通電しない材質、つまようじなど)でリセットボタンを押して、本製品をリセットする。 	—

保証規定

保証規定

1. 取扱説明書などの注意書に基づくお客様の正常なご使用状態のもとで保証期間内に万一故障した場合、無料にて故障箇所の修理をさせていただきますので、お買い上げの販売店に本保証書を添えてお申し出ください。
2. 本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については弊社はその責任を負わないものとします。
3. 不当な改造については弊社は一切の責任を負わないものとします。
4. 修理品のご持参、お持ち帰りの交通費、または送付される場合の送料および諸掛りはお客様のご負担となります。なお、ご送付の場合は適切な梱包のうえ、紛失防止のため受け渡しの確認できる手段（簡易書留や宅配など）をご利用ください。
5. 次のような場合には、保証期間内でも保証の対象となりません。
 - (1) 本保証書のご提示がない場合。
 - (2) 本保証書にシリアルNo、お買い上げ日、販売店名、販売店印などの記入捺印のない場合、または字句を書き替えられた場合。
 - (3) お客様による輸送、移動時の落下、衝撃など、お客様の取り扱いが適切でないために生じた故障および損害。
 - (4) お客様による使用上の誤り、各構成部品の紛失、あるいは修理による故障および損害。
 - (5) 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損害。
 - (6) 本製品に接続する弊社指定以外の機器および消耗品に起因する故障および損害。
 - (7) 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合、出張に要する実費を申し受けます。
6. ACアダプターやUSBケーブルの破損、内蔵電池は保証の対象外となります。
7. ご不明の点は、お買い上げの販売店にご相談ください。
8. 本保証書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
9. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

(This warranty is valid only in Japan.)

保証書

持込修理

保証書

本保証書は、前記保証規定内容により無料修理を行うことをお約束するものです。

お買い上げの日から下記保証期間内に万一故障が発生した場合は、本書を提示のうえお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

本書の再発行は行いませんので紛失しないように大切に保管してください。

品名	デジタルメカニックゲージ		
機種名	HCK-801B	Serial No.	
保証期間	お買い上げ日より1年(本体)		
	お買い上げ日: 年 月 日		
お客様	お名前	様	
	ご住所	〒	
	お電話	TEL	
販売店	店名		
	住所		
	電話		

販売店様へ

本保証書はお客様へのアフターサービスの実施と責任を明確にするものです。
贈答品、記念品の場合も含めて必ず記入捺印してお客様にお渡しください。

〈販売元〉 株式会社 日立オートパーツ&サービス
〒135-0062 東京都江東区東雲2-10-14

〈製造元〉 **KTC** 京都機械工具株式会社

お問い合わせ先

本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または弊社担当窓口(カスタマーサポートセンター)へお問い合わせください。

連絡先：カスタマーサポートセンター

受付時間：9：00～17：30（土・日・弊社休業日除く）

TEL：03-3527-6323

- 仕様および外観は改良の為予告なく変更することがあります。
- 本書の著作権は、(株)日立オートパーツ&サービスが保有しています。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。実行した結果の影響につきましては、上記の理由にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- Bluetooth[®] ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標であり、(株)日立オートパーツ&サービスはこれら商標を使用する許可を受けています。
- その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。